

泌尿器科プログラム

一般目標(オリエンテーション)

泌尿器科では副腎、腎、尿路、男性性器を扱い、診療対象とする疾患はそれら臓器に発生する各種腫瘍、排尿障害、尿路結石、尿路感染症等多岐にわたります。またその診断から治療まで、そして治療も内科的治療から外科的治療まで、広い範囲をカバーします。当院では、総勢5名の泌尿器科医で診療にあたっており、日本泌尿器科学会認定指導医2名、腹腔鏡技術認定医2名、ロボット手術プロクター認定医1名を擁しています。年間手術件数は約430件で、主な内訳は膀胱全摘(ロボット手術)5-10件、前立腺全摘(ロボット手術)約40件、腎部分切除術(ロボット手術)約15件、腎尿管悪性腫瘍手術(腹腔鏡手術)約30件、尿路結石に対する経尿道的結石除去術約100件となっています。癌の治療は手術療法を主体に行いますが、再発や進行癌症例に対する化学療法も積極的に実施しています。また低侵襲手術にも力を注いでいて、ほとんどの癌の手術が腹腔鏡やロボット手術となっています。前立腺肥大症に対してはレーザー治療を行っています。尿路感染を合併した尿路結石症例も多く、複雑性尿路感染症の診断から治療を総括的にを行っています。研修は、手術や検査・処置の助手、入院患者の診療を担当し、泌尿器科の臨床業務の概略を体験します。泌尿器科領域の医療・福祉に関する問題について、泌尿器科を選択しない一般医師として必要な知識を習得してもらうことが目標です。

行動目標

B-1医学・医療における倫理性	医の倫理、生命倫理について理解し、適切に行動できる
B-2医学知識と問題対応能力	臨床上の疑問的を解決するための情報を収集して評価し、当該患者への適応を判断できる
B-3診療技能と患者ケア	プライバシーや患者個人の社会的背景などに配慮した診療ができる
B-4コミュニケーション能力	上級医や他の医療従事者と適切なコミュニケーションがとれる
B-5チーム医療の実践	医師以外の医療従事者にわかりやすく症例に関する説明ができる
B-6医療の質と安全の管理	医療を行う際の安全確認の考え方を理解し、実施できる
B-7社会における医療の実践	保険医療法規・制度を理解し、適切に行動できる
B-8科学的探究	医療上の疑問点を認識し、科学研究方法を理解する
B-9生涯に渡って共に学ぶ姿勢	変化・発展する医学知識・技術を吸収する必要性を認識する

研修の方略(LS)

週間スケジュール	月	火	水	木	金
8:30～9:00	カンファレンス	病棟業務	カンファレンス	病棟業務	カンファレンス
	病棟回診		病棟回診		病棟回診
9:00～12:00	手術	外来処置	手術	手術	手術
	病棟業務	病棟業務	病棟業務	病棟業務	病棟業務
12:00～13:00	昼食	昼食	昼食	昼食	昼食
13:00～17:00	手術	外来処置	手術	手術	手術
	病棟業務	病棟業務	病棟業務	病棟業務	病棟業務
17:00～		カンファレンス			

病棟業務

担当患者の診断・治療方針決定を主治医とともに行う。
担当ではない患者の術後創処置、末梢点滴ルート確保など行う。

手術

基本的には全ての手術に助手として参加する。経尿道的手術においては、実際に機器の操作に関わる。
手術室以外(透視室や結石破砕室)で行う、経尿道的処置においても助手を務める。

カンファレンス

担当患者の治療経過を指導医へ報告する。判断に迷う状況では適宜上級医へ相談する。
科として治療方針に大きな差違が生じないよう意見の統一を図る過程を体験する。

その他 緊急時対応・学術活動等

勤務時間内に生じた緊急時には主治医とともに初期対応に当たり、診療をサポートする。
機会があれば学会活動(症例報告等)に参加する。

経験可能な症候(経験すべき症候29症例中1症候)		
1	ショック	
2	体重減少・るい瘦	
3	発疹	
4	黄疸	
5	発熱	
6	ものの忘れ	
7	頭痛	
8	めまい	
9	意識障害・失神	
10	けいれん発作	
11	視力障害	
12	胸痛	
13	心停止	
14	呼吸困難	
15	吐血・喀血	
16	下血・血便	
17	嘔気・嘔吐	
18	腹痛	
19	便通異常(下痢・便秘)	
20	熱傷・外傷	
21	腰・背部痛	
22	関節痛	
23	運動麻痺・筋力低下	
24	排尿障害(尿失禁・排尿困難)	○
25	興奮・せん妄	
26	抑うつ	
27	成長・発達障害	
28	妊娠・出産	
29	終末期の症候	
経験可能な疾病・病態(経験すべき疾病・病態26疾病・病態中2疾病・病態)		
1	脳血管障害	
2	認知症	
3	急性冠症候群	
4	心不全	
5	大動脈瘤	
6	高血圧	
7	肺癌	
8	肺炎	
9	急性上気道炎	
10	気管支喘息	
11	慢性閉塞性肺疾患(COPD)	
12	急性胃腸炎	
13	胃癌	
14	消化性潰瘍	
15	肝炎・肝硬変	
16	胆石症	
17	大腸癌	
18	腎盂腎炎	○ 排尿障害や尿路結石に起因した複雑性腎盂腎炎の診断と治療
19	尿路結石	○ 腎、尿管、膀胱結石の診断と治療、手術
20	腎不全	
21	高エネルギー外傷・骨折	
22	糖尿病	
23	脂質異常症	
24	うつ病	
25	統合失調症	
26	依存症(ニコチン・アルコール・薬物・病的賭博)	

経験可能な臨床手技	研修医1年次			研修医2年次		
	単独可能	単独不可		単独可能	単独不可	
		事前確認	指導医立会		事前確認	指導医立会
体位変換						
移送						
皮膚消毒						
外用薬の貼布・塗布						
気道内吸引・ネブライザー						
静脈採血						
胃管の挿入と抜去						
尿道カテーテルの挿入と抜去			○		○	
注射(皮内、皮下、筋肉、静脈内)						
中心静脈カテーテルの挿入)						
動脈血採血・動脈血)						
腰椎穿刺						
ドレーンの挿入・抜去						
全身麻酔・局所麻酔・輸血						
眼球に直接触れる治療						
①気道確保						
②人口呼吸(バッグ・バルブ・マスクによる徒手換気含)						
③胸骨圧迫						
④圧迫止血法						
⑤包帯法						
⑥採血法(静脈血、動脈血)						
⑦注射法(皮内、皮下、筋肉、点滴、静脈確保、中心静脈確保)						
⑧腰痛穿刺						
⑨穿刺法(胸腔、腹腔)						
⑩導尿法			○		○	
⑪ドレーン・チューブ類の管理						
⑫胃管の挿入と管理						
⑬局所麻酔法						
⑭創部消毒とガーゼ交換						
⑮簡単な切開・排膿						
⑯皮膚縫合						
⑰軽度の外傷・熱傷の処置						
⑱気管挿管						
⑲除細動等						
検査手技の経験						
血液型判定・交差適合試験						
動脈血ガス分析(動脈採血を含む)						
心電図の記録						
超音波検査						
評価(Ev)						
研修医評価票を用いて、下記のとおり評価する。 A.医師としての基本的価値観(プロフェッショナリズム)について、到達目標における医師としての基本的価値観4項目を評価する。 B.資質・能力について、研修修了時に習得すべき包括的な資質・能力9項目について評価する。 C.基本的診療業務について、研修修了時に身に付けておくべき4つの診療場面(一般外来診療、病棟診療、初期救急対応、地域医療)における診療能力について評価する。						